

転覆事故で乗船者救出

人命救助で海上保安庁から感謝状

上天草市で転覆したミニボートの乗船者を救助したとして6月18日、一の宮町の加藤卓也さん(下西河原)が熊本海上保安部長から感謝状を贈呈されました。加藤さんは5月7日の早朝、同市の陸岸で釣りをしていたところ、海水浴場沖合でミニボートがバランスを崩して転覆するのを目撃。直ちに海上保安部へ118番通報しました。また、同じく付近で釣りをしていた男性が周辺を尋ね回り救助の協力者を確保。漁船で現場に向かい男性2名を救助しました。

感謝状を受け取った加藤さん(左)



火災や災害現場での活動に尽力

元消防指令長 後藤光昭氏に瑞宝単光章

永年にわたり、消防士業務に従事された後藤光昭氏(小倉)が、危険業務従事者として瑞宝単光章を受章し5月22日、蒲島知事から叙勲の伝達を受けられました。

後藤氏は、昭和46年4月に阿蘇中部消防組合の消防士として採用され、阿蘇広域行政事務組合消防本部中部消防署副署長兼南部分署長を歴任。退職した平成20年までの37年の間、災害や火災現場の最前線で業務に従事されました。

5月31日、佐藤市長に報告に訪れた後藤氏は「受章は多くの方々のおかげ。家族にも感謝している」と喜びを語りました。

表彰



受章報告に訪れた後藤氏(右)

歯科保健の理解を深めよう

歯と口の健康にかかる講演会

歯科保健の啓発を目的として6月10日、阿蘇地域歯科保健連絡協議会(会長 武藤健史)主催による口腔ケアの講習会が阿蘇グリーンヒルと阿蘇みやま荘の2施設で開催されました。

6月4日から10日にかけて実施された「歯と口の健康週間」に合わせて行われたこの取り組みでは、阿蘇郡市歯科医師会による口腔ケアの重要性を伝える講演や、熊本県歯科衛生士会阿蘇支部による口腔ケアの実演が行われました。口腔内や義歯を清潔を保つことは誤えん性肺炎の予防につながる話など、入所者や職員の方は熱心に話を聞いていました。

わだい



歯科医による講演の様子

キャンプシーズン到来

坊中野営場開きで安全を祈願

市営坊中野営場開きが6月26日に行われ、関係者や乙姫保育園、YMCA黒川保育園の園児ら約50名が出席し、シーズン中の安全を祈願しました。

同施設は昭和48年に開設。敷地面積約8万7400㎡という広大なキャンプ場で、開設当時から場内の管理に一切農薬を使っていないなど、自然環境を大事にしている施設です。

松本勇二場長は「昨年は熊本地震の風評被害で利用者は例年の2割に止まった。今年の5月は例年平均の1.5倍の来場者があったおり幸先が良い。地震後の復興元年として活動したい」と、意欲を語りました。

News



安全祈願の様子

わだい



レクリエーションで体をほぐす参加者たち

仮設住宅の入居者らが交流

熊本地震による被災者の交流会

熊本地震の被害を受けて仮設住宅及びみなし仮設住宅に入居している方を対象に6月24日、阿蘇保健福祉センターで被災者の交流会が開かれました。

市内5カ所の仮設住宅やみなし仮設住宅の入居者間で、交流を持つきっかけづくりになればと阿蘇市地域支え合いセンターが企画したもので、入居者ら約70名が参加しました。

交流会では、熊本県警察音楽隊による演奏や阿蘇少年少女合唱団による合唱などステージショーのほか、体操などのレクリエーション、地域婦人会による食事の振舞いなどが行われ、参加者たちは親睦を深めました。

火口見学の実施について検証

阿蘇中岳火口テストツアー

昨年10月8日の爆発的噴火によって火山ガス自動測定装置や転落防止柵等が破損し、立入が規制されている阿蘇中岳火口で7月1日、安全対策等の条件を付けたテストツアーを行いました。

このツアーは、火口周辺施設の復旧期間中でも安全対策を行った上で、少人数での火口見学が可能か試験的に実施したもので、公募した15名が参加。火山灰などが堆積している中岳火口周辺や砂干里を携帯用の火山ガス検知器を装備した監視員とジオガイドが同行し、説明を受けながら見学しました。

ツアーの結果を参考に7月19日に開かれた阿蘇火山防災会議協議会では、安全対策等に課題が残ることから、火口見学再開を見送ることにしました。

News



破損した転落防止柵の代わりに張られたロープの外側で火口見学が行われた



WebTVアプリ
動画

犯罪のない地域社会へ

社会を明るくする運動出発式

「社会を明るくする運動」強調
月間に合わせ7月3日、市役所
庁舎前で街頭啓発活動の出発式
が行われました。

この運動は、犯罪や非行のな
い地域社会を築こうとする全国
的な運動で、今回67回目を迎え
ます。

出発式では、保護司会や更生
保護女性会などで組織する阿蘇
中部地区推進委員会の相坂治幸
委員長による出発のあいさつの
後、市内や産山村の街頭啓発活
動に向かい、店舗や学校を広報
車で巡回。チラシや啓発グッズ
を配布し、安全で安心な暮らし
のために理解と協力を呼びかけ
ました。



出発式の様子

わだい

豪雨被災地の早期復旧を願って

日田市と朝倉市に物資を支援

News



日田市長へ目録を手渡す佐藤市長

7月5日から降り続いた記録
的豪雨で被災した大分県日田市
と福岡県朝倉市へ阿蘇市から7
月10日と14日にそれぞれ支援物
資を届けました。

今回の豪雨では、24時間雨量
が日田市で370ミ、朝倉市で
545ミと観測史上最大の雨量
を記録。土砂崩れや河川の氾濫
などで、多くの犠牲者や住宅倒
壊など甚大な被害が出ています。
ライフラインの寸断や被災者の
避難が続く中、市から飲料水や
栄養ドリンク、缶詰などをそれ
ぞれの市へ届け、被災者や職員
を激励しました。

豪雨災害の被害者を追悼

九州北部豪雨から5年目の追悼式

甚大な被害をもたらした九州
北部豪雨から丸5年となった7
月12日、市内各所にて犠牲者の
冥福を祈りました。

阿蘇市役所玄関前では、犠牲
者の遺族の方をはじめ議会議
員、区長、市職員など約70名が並
び、防災無線のサイレンに合わ
せ黙祷を捧げました。

佐藤市長は、「年々激しく増加
する局地的豪雨に対して、人的
被害等が発生しないよう万全を
期して取り組みます」と述べま
した。

当時の災害では、1時間に
108ミの雨を記録。死者・行方
不明者22名の人的被害のほか、
各地で土砂崩れや浸水被害など
が発生しました。



被害の大きかった方角に向かって黙祷

News

